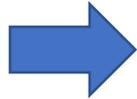


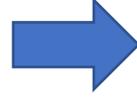
AI&診療情報管理士科_3年間の実習の流れ

3年間の実習概要

1年生・5月 見学



1年生・2月
診療情報管理士単位実習



2年生・11月
課題発見を主眼とした実習



3年生5月
医療機関内のAIによる医療DXを見学・実践
させて頂く実習

《概要》

期間：1日（8時間程度）
クラス20～30名程度
教員引率1～2名

《内容》

さらっと全体をみてる。
事務だけじゃなくて、
他部署も

目的：病院の雰囲気、働く人を実際に見てきて、今後の学習に繋げる

ゴール：病院の雰囲気がわかる

《概要》

・期間：2週間（80時間）
・診療情報管理士室の実習をいれるため、
ここで認定試験の単位要件を満たす

《内容》

・目的：
診療情報管理士認定試験受験に必要な
単位取得

・ゴール：
・机上学習と現場の診療情報管理士業務
の異同を理解できる。
・医療事務、医師事務作業補助者との
業務の差異を理解し、診療情報管理士の
役割を説明できる。

《概要》

期間：4週間（120時間）
※うち1週間は企業インターン
学生配置：特定機能病院/地域医療支援病
院…基本2名1組
（関東圏も配置には組む）

《内容》

目的：
学内で培った課題発見スキルを実際の
社会現場にて演習する

ゴール：
・実習先の業務フローや繋がり理解できて
いる。
・現状を知り、課題を見つけることが
できる。

《概要》

期間：1週間（40時間）
学生配置：2名1組もしくは3名1組
複数の医療機関をローテーション

《内容》

目的：
医療機関におけるAI活用における医療DXの
現状を実地で学び、実践的な運用について
学習する。

ゴール：
・医療DXでAIが活用されている現場を見て、
医療DXの現状を知り体験する。

各学年・期間での実習内容

1年生・5月 病院見学

目的： 病院の雰囲気、働く人を実際に見て、
今後の学習に繋げる

ゴール： 働く場所の雰囲気理解

医療機関に依頼させて頂きたい内容

・各部署の見学

- ・ しっかり見たい：診療情報管理士室、医事課、クラーク部門
- ・ 可能ならば見せてほしい：医局、リハビリテーション部門、
検査部門、薬剤部門、放射線部門

・働く人に実際のお仕事内容や業務内容を説明してもらおう

- ・ 診療情報管理士/医療事務の方に簡単に病院の各部門、
施設や設備について説明していただく

見学をする医療機関候補

- ・ 特定機能病院
 - ・ 九州医療センター ※今年度実績あり
 - ・ 佐賀大学医学部附属病院
 - ・ 久留米大学病院
 - ・ 九州大学病院
- ・ 地域医療支援病院
 - ・ 飯塚病院
 - ・ 九州中央病院
 - ・ 福岡東医療センター

想定している見学の回数

- ・ 2 医療機関に 1 日でそれぞれ見学に行く
 - ・ 現場を実際に見る機会が多くしたい
 - ・ 病院ごとに見学させていただける部分が違いそうなので、
見れなかったところなどを補填したい

《 イメージ図 》



各学年・期間での実習内容

1年生・2月 診療情報管理士単位実習(2週間)

•目的：
診療情報管理士認定試験受験に必要な単位取得

- ゴール：
- ・机上学習と現場の診療情報管理士業務の異同を理解できる。
 - ・医療事務、医師事務作業補助者との業務の差異を理解し、診療情報管理士の役割を説明できる。
 - ・他医療機関実習生の体験を聞き、自らの実習先との業務差異を認識できる。
→実習後に実施予定の報告会での目標

医療機関に依頼させて頂きたい内容

●実習先の条件

- ・診療情報管理士部門があること。
- ・病院規模は限定しない。
→学生の意向も確認しつつ、実習先を選定する。

●実習内容 (必ず見学させていただきたい内容)

- ・診療情報管理士の業務フロー見学
(業務の流れ、他部門との関わり)
 - ・医療事務、医師事務作業補助者の業務フロー見学
- 実習時点では、座学ですべての業務に関する内容を履修できていないため、大枠を捉えるイメージ。

各学年・期間での実習内容

2年生・11月 課題発見を主眼とした実習 (4週間)

目的：

学内で培った課題発見スキルを実際の社会現場にて演習する

ゴール：

- ・実習先の業務フローや繋がり理解できている。
- ・現状を知り、課題を見つけることができる。

●実習の流れ

1週間、企業にて受け入れ(短期インターンのイメージ)。

その後3週間は医療機関にて実習。

企業では課題解決までの思考力を養い、医療機関での実習で課題を発見してくる想定。

※今回の受け入れ病院は1年生の2月の時とは、異なる医療機関を想定している

●実習先の条件

医療機関：

- ・事務部門のセクションが複数存在する。
- ・特定機能病院または地域医療支援病院のような一定規模以上の病院。
- ・学会発表が活発で、常に課題解決に取り組む姿勢を持つ病院。
(スマートホスピタル構想に参画している病院が望ましい。)

医療関連企業：

- ・企業における課題解決型のインターンシップが可能、もしくは大学生向けに実施されている企業かつ、医療システムベンダーなど、システムやデータ関連の学習に繋がる企業。
(リクルート目的も加味するが、単位取得を目的とした実習受け入れに協力的な企業。)
- インターンシップは個人個人で申し込むことも検討。

各学年・期間での実習内容

2年生・11月 課題発見を主眼とした実習 (4週間)

« 医療関連企業での実習内容 »

●課題解決型のケーススタディ

(インターンシップのイメージとして
公開されている内容を各ホームページより引用)

2DAYS 医療系IT体感コース

コンテンツ

医療機関の課題を解決

コンサルティング～ソリューション企画・提案

体験できる職種

医療系エンジニア、ソリューション営業

応募資格

全学部全学科

学べること

・IT業界のトレンド理解

・リアルケースを題材としたお客様へのヒアリングスキル、提案スキル

・医療×ITの業務知識 <https://itec.hankyu-hanshin.co.jp/recruit/newgraduate/internship/>

『この課題をITで解決してください!』(ケーススタディ)

- ・課題(ケース)のご説明
- ・ディスカッション(いろいろなアイデアを出して解決策を探しましょう)
- ・発表
- ・フィードバック

<https://job.rikunabi.com/2026/company/r569091005/internship/>

FJJ46 病院経営の課題解決に挑戦しませんか?(東海地区)

テーマ概要	【概要】 富士通(Japan) 広域ヘルスケアデリバリー事業部では全国の病院を対象とし、病院経営課題を解決する革新的なソリューションを提供することを目指しています。この度、学生の皆さんに、インターンシッププログラムに参加していただき、病院の経営課題に取り組む機会を提供します。私たちと一緒に、待ち時間の削減や病院業務の効率化、経営改善などの課題解決に挑戦し、医療業界の未来を共に創りましょう。
	【詳細】 本プログラムでは、以下のような具体的な実施内容を予定しています。 1) 院内の現状調査: <ul style="list-style-type: none">● 病院の待ち時間や診療フローに関するデータ収集と分析● 医療スタッフへのインタビュー調査● ※日程が合わない場合はロールプレイングで代替します 2) 経営課題の特定と分析: <ul style="list-style-type: none">● 待ち時間削減や医療サービスの質向上などの経営課題の特定 3) 経営課題解決に向けた仮説提案: <ul style="list-style-type: none">● インターンシップ参加者および若手社員とのチームワークによるアイデア出しとブレインストーミング● 経営課題に対する具体的な仮説提案と実施計画の作成 4) 提案内容の共有: <ul style="list-style-type: none">● 今まで検討してきた内容を踏まえてプレゼンテーション資料作成・発表 https://fujitsu.recruiting.jp/fujitsu.com/intern-theme/theme-fjj46/

各学年・期間での実習内容

2年生・11月 課題発見を主眼とした実習 (4週間)

目的：

学内で培った課題発見スキルを実際の社会現場にて演習する

ゴール：

- ・実習先の業務フローや繋がり理解できている。
- ・現状を知り、課題を見つけることができる。

« 医療機関での実習内容 »

- ・医療事務、医師事務作業補助者、診療情報管理士の業務見学と説明
診療情報管理士業務のDPC業務、がん登録業務、統計業務は必ず内容に盛り込む。

→1年次の実習段階では、座学で扱っていない内容であるため、改めて見学を実施することで、知識を補完する。

- ・事務系の部署内での業務体験。

実習先には「学生が業務フローを可視化する」目的を伝え、受け入れ部署は先方にて選択いただく。

- ・業務フロー作成は複数作成させる。(3週間で3つを想定)

→業務フローを可視化させることで、課題の糸口をつかむ。
発見した課題に対する解決策の検討は3年次の授業で扱う。

各学年・期間での実習内容

3年生5月

医療機関内のAIによる医療DXを見学・実践 させて頂く実習(1週間)

目的：

- 医療機関におけるAIの活用状況を実地で学び、実践的な運用について学習する。

ゴール：

- 医療DXでAIが活用されている現場を見て、医療DXの現状を知り体験する。

※今回の受け入れ病院は1年生の2月／2年生の11月の時とは、異なる医療機関を想定している

•実習先の条件：

- 医療DXでAIを使用しているところ
→AIレセチエッカーなど。研修会や学会発表先などから選定

•医療機関に依頼をさせて頂きたい内容：

- 医療DXでのAI活用事例の紹介／実際の運用現場の見学と業務体験

•方法：

- 3医療機関を準備し、2人1組ないし3人1組で5日間実習を行う。

•前回からの変更点として：

- 医療情報技師の試験（情報システム）の理解を深める実習メニューを考えていたが、受験した学生へのインタビューより知識のインプットに課題があり、目で見ると体験よりもシステム間の繋がりやフローをわかりやすく図示した内容を授業で展開する方が効果的ではないかと結論に至った。

AIにおける医療DXの理解・体験に振り切った実習に改変をした。